

区名審議に怒る

来年の政令市化に伴う区名の審議が、去る11月18日～20日にかけてさいたま市議会で行われ、原案通りの可決となりました。この区名案については、公表時点から議論が巻き起こり、様々な意見に基づく署名も、各種合わせると8万に届く数が集められました。私も、議会はこれらの市民の声をどのように反映させることができるのだろうか、大変注目をしており、街頭演説でもそのことについては、訴えを続けておりました。

しかし、結果は原案通り。いや、問題は原案通りだったということにあるわけではありません。原案に対する市民の声を、本当に議会は審議したのだろうか、ということです。納得のいく審議のないまま、原案がそのまま通ったことに、憤りを覚えざるを得ません。

- ①アンケートを重視すべきだという、市民の大きな怒りがありました。
- ②「見沼区」に対する反対意見が、地区住民を中心に盛り上がりました。

いずれにも、反対意見を強くアピールし、市の姿勢を責める質問をした議員は多くありました。しかし、市を責めるパフォーマンスをいくらしたとしても、執行部はその案を変えません。では、議会はどうするのか。議会には、市の出してきた案に対して、市民の声を反映して、「反対」する力も、「別の案」を提出して実現する力もあるのです。しかし、真剣にそれに取り組んだ議員は、一体何人いたのでしょうか？

この臨時議会は、2日間の予定で行われ、私はその初日に傍聴に出かけました。本会議と、本会議から付託されてこの区名案の審議を行う総務委員会の両方を傍聴しました。この日、10時の本会議に始まり、総務委員会が採決を翌日に持ち越す形で終了したのは、日付をまたいだ深夜1:30過ぎでした。二日目は傍聴していないので、詳しいことはわかりませんが、両日とも、新聞などには、長時間審議されたとの報道があり、議員の「十分審議は尽くした」とのコメントがのりました。しかし、長くやっても、中身がないのでは意味がありません。

少なくとも私が見た一日目についていえば、長時間の審議はほとんど、同じような内容の質問の繰り返しでした。質問者、発言者はそれぞれ違う議員ですが、内容は同じ。これに、全く同じ回答を市がしていく、延々とただその連続でした。正直、驚きました。同じ質問を繰り返せる神経がわかりませんでした。これでは、議員達が「一応その内容で市を責めた」というアリバイ作りにしかなりません。そして、何より驚いたのが、一日目の最後に行われた請願の審議です。もう深夜に及んでいて、委員の議員も疲れているのはわかりますが、何万という署名を集めた真剣な市民の請願が、余りに軽々しく扱われるのにショックを受けました。委員長の「この請願について質問は？」の声に、もう疲れているからどうでもいいと言わんばかり

に「質問はな～し、なし」といった委員の声、声。(ごく一部の議員は、その雰囲気の中でも真面目に質問をしていました。)次々に請願は切り捨てられて行きました。

もちろん、アンケートをやっておきながら無視した原案を押し通す市側にも問題があると思いますが、その市の姿勢をチェックし、市民の声を反映させることができるのが議会ではないでしょうか？

こんな議会ではいけません。

市民による、議員の大幅入れ替えが必要と感じたのは、私だけではないはずです。